

『こどもふれあいDay』 みんなで鯉のぼり作りなど



5月4日、サポートセンター「えましあ」で毎年恒例の『こどもふれあいDay』が開かれました。この事業は平成29年度から毎年行われているもので、多くの親子が訪れました。鯉のぼり完成後には、みんなで鯉のぼりを揚げ、記念撮影を行いました。

全長80メートルの横断幕で 安全運転の徹底を呼びかけ



5月10日、今年も春の交通安全運動に合わせ、レ・コード館前で交通安全街頭啓発運動の『人の波作戦』が行われ、多くの人が活動に参加しました。

当日は、交通安全推進委員会や老人クラブ連合会、ライオンズクラブ、建設協会関係者など町民約200名が交通事故根絶を訴えました。

人権の花運動で 思いやりの心を大切に



人権擁護委員4名による『人権の花贈呈式』が、5月21日新冠小学校、5月23日朝日小学校で行われました。この贈呈式は、花の苗などの育成を通して、命の大切さと人の心の痛みなどを学んでもらおうと実施されているもので、児童たちは、用意されたプランターへ贈られたマリーゴールドを心を込めて移植しました。

新冠町いきいき大学開講式 今年度も全7回の学習会を開催



5月22日、レ・コード館で「新冠町いきいき大学開講式・第1回学習会」が開かれました。これは、60歳以上の方を対象に新しい知識や技術を得し、互いに親睦を深めながら健康で心豊かな老後を送ることを目的に実施しています。この日は、日高徳洲会病院の上原明彦先生から「健康に大切なものの「食事と運動以外の第三の要素とは」と題した講話をいただきました。



○自治会役員10年表彰
○自治会役員30年表彰
○自治会会长10年表彰
○自治会役員20年表彰

切石 壮次・横井 敏晴（中央町）
三国 康穂（北星町）
佐々木 繁幸（仲之町）
五十嵐 照夫（中央町）
吉田 寿（仲之町）
柳澤 良孝（中央町）



惠寿荘開設以来 每年恒例の 大狩部婦人会による花壇整備

5月28日、大狩部婦人会が惠寿荘に「お花」の寄贈をし、花壇の整備を行いました。同婦人会は、地域貢献の一環で、惠寿荘が開設以来、毎年花壇整備を行っています。今年も「マリーゴールド」や「サルビア」「ネモフィラ」などの綺麗なお花を惠寿荘入所者の皆さんにプレゼントし、外出の機会の少ない入所者の皆さんは、夏の始まりを感じながら、大変喜んでいました。

まちの話題あれこれ

町保健師、管理栄養士を派遣 地域の要望に応じ『出前講座』



5月25日、町保健室で『中央町老人クラブ料理教室』が開かれました。料理教室では、手軽に作れる塩分ひかえめの献立「さば缶ときやべつの炒め」、「小松菜のさけフレーク炒め」などを、参加者全員で協力して調理し、おいしくいただきました。その後、減塩のポイントや低栄養予防などについて学びました。



5月16日、町内の小中学校に設置された学校運営協議会の第1回目となる会議が開かれました。近年、子どもや学校が抱える問題が複雑化・困難化している状況の中、「社会総がかりでの教育の実現」が重要であると言われています。このため、地域と一緒に新たな新たな学校への転換に効果的とされる学校運営協議会が設置されました。



5月16日、保健センターで今年度最初の『からだりセット講座』が開かれました。この講座は、運動習慣の定着や食習慣の見直しを行い、生活習慣病の予防や改善を図ることを目的に実施しています。この日は、円山クリニックの齊藤健康運動指導士を招き、「生活习惯の振り返りと習慣化」などについて学んだのち、筋力トレーニングと有酸素運動で汗を流しました。

ケイセイマサキ建設と 新冠ほくと園による地域貢献

今年度の『からだりセット講座』始まる 健康習慣を身に付けよう

5月10日、節婦地区でケイセイマサキ建設（正木省司社長）と新冠ほくと園が運営する節婦ほろしりの里の利用者と職員による、花壇整備と清掃活動などが行われました。

これは、毎年花壇整備に取り組む老人クラブに、花の苗と花植え作業の提供をケイセイマサキ建設が申し出たのをきっかけに行われました。この日は、社員8名、老人クラブ会員20名、節婦ほろしりの里17名の計45名により、駅や生活館などの花壇整備、施設周辺や海岸線のゴミ拾いなどを行ない、地域の環境美化に汗を流しました。

